

## 大臣級会合における棚橋大臣基調演説

科学技術政策担当大臣

棚橋 泰文

(冒頭)

第5回アジア原子力協力フォーラム(FNCA)の大臣級会合の開会に当たりまして、主催者の一人として、また、日本国政府において原子力利用を含む科学技術政策全般を担当している閣僚としてご挨拶申し上げます。

初めに、オーストラリア、中国、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピンおよびタイからのご参加を心より歓迎いたします。

また、ベトナム政府には、今回の会合を私どもと共同で主催いただき、このような盛会のフォーラム開催となりましたことに御礼申し上げます。

(FNCAに関する基本認識)

アジア地域は、世界で最も高い経済成長率を有する地域の一つです。そのような地域の国々の大臣が一同に会する本「FNCAの枠組は、原子力技術の平和目的に限定したかつ安全な使用において、積極的な地域のパートナーシップを通じて、社会経済の発展を拡大するための効果的なメカニズム」として認識しています。そうした認識に立って、FNCA会合に対する私の期待を以下に申し述べます。

原子力技術の平和利用については、放射線利用による医療、農業、工業等の各分野への利用から、エネルギー利用まで幅広く人類社会の福祉と生活の水準の向上および科学技術の発展に貢献するものであり、ますますその重要性を増しています。

(放射線利用)

放射線利用については、FNCA協力プロジェクトにおいても、農業利用の分野、医学利用の分野等において数多くの成果が得られ、生活に活かされております。引き続き、関係国間の協力が進展し、放射線利用が普及し、大勢の人々が放射線利用の恩恵を受け、人々の生活が向上することを期待しています。

(原子力のエネルギー利用)

エネルギー利用については、FNCA参加国でそれぞれ取り組みの状況は違っておりますが、地球温暖化問題への対応が強く求められる中で、原子力のエネルギー利用の重要性は高まるものと信じております。また、今後とも大きい経済発展が見込まれるアジア地域においてはエネルギーの安定供給は各国の持続的発展に不可欠であるという認識はますます高まっています。本年より本枠組の中でパネルを設置し、3年計画で「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」について討議を開始したところであり、安全を大前提とした、原子力エネルギーの役割とFNCA各国の協力について引き続き議論することが重要と考えています。

#### (原子力の平和利用及び核不拡散)

原子力利用を推進していくためには、核不拡散体制の維持が極めて重要です。わが国は、原爆による悲惨な体験を有する唯一の被ばく国として、「核兵器を持たず、作らず、持ち込ませず」との非核三原則を堅持しております。また、原子力利用を平和目的に限って行うことについては、国内においては、原子力基本法において定めるとともに、核兵器不拡散条約（NPT）を礎とする国際的規範を完全に遵守しており、本年6月にはIAEAにより、包括的保障措置協定および追加議定書に基づく検証活動の結果、保障措置下におかれた核物質の転用を示す兆候も未申告の核物質および原子力活動を示す兆候もないとの結論が出されています。核不拡散体制の積極的な強化のため、最も現実的かつ効果的な方途として、IAEAの保障措置に関する追加議定書が未締結の国に対して、早期の締結を呼びかけます。

#### (原子力安全)

原子力の平和利用の推進に当たって、安全の確保は大前提です。わが国としては、様々な枠組を通じて、この分野における協力を各国と進めつつありますが、今後ともこの分野の協力を充実するとともに、わが国においても、安全確保のため、今後ともたゆまぬ努力を続けていきます。

#### (セキュリティ)

近年テロ攻撃の手段として放射線源を使用する懸念があることから、国際的にも放射線源の安全管理の一層の必要性が求められております。「放射線源の安全とセキュリティに関する行動規範」が2003年9月にIAEA総会で採択されました。放射線源の紛失やテロリストによるダーティボムなどの悪意ある使用を防止し安全な利用を継続するためには、各国が本規範を遵守することが必要であります。わが国は、同行動規範の推進を積極的に支持してきているところであり、FNCA参加各国におかれても同行動規範を支持し、確実に履行していくことを期待します。

#### (ITER計画)

また、将来のエネルギー源として期待される核融合では、国際核融合実験炉（ITER）計画が進められています。我が国はITERの建設サイトとして青森県六ヶ所を提案しており、引き続きITERの誘致に最大限努力していく所存です。ITER計画のような世界最先端の国際共同研究開発の拠点をアジアに誘致することは、極めて意義深いことと思います。

#### (政策対話)

今年のFNCAは、基調テーマを「アジアにおける原子力人材養成に関する協力」としてあります。今後の、原子力利用を支える人材の確保は今後、各国が原子力利用の進展を図っていく上で極めて重要な課題であり、議論を通じて、有効な協力のあり方が見出されることを強く期待しております。また、本年で、FNCA発足5年目を迎えており、今後のあり方を議論すべき時期を迎えております。後ほど町コーディネーターからこれまでの活動の成果について、総括的な報告がなされる予定となっておりますが、これまでの成果を踏まえ、今後のあり方について活発な議論が行われることを期待しております。

この機会に私の考え方を申し上げれば、FNCA 各国が共通に抱える課題について、このような大臣級会合の場を中心にハイレベルでの大所高所にたった政策討議を行うことは、各国における問題解決や FNCA 各国間の協力につながるものとして有効な手段と考えます。具体的な研究協力のテーマについても今後、充実を図っていくことが期待されますが、私は「持続的発展の戦略における原子力の寄与」、「人材育成」、「原子力安全」、「原子力科学技術」、「FNCA と他の機関等との連携」等の課題について、今後とも私たち大臣クラスによる討議、力策の提示等のイニシアティブが必要であると考えています。FNCA における政策討議の充実も検討されるべき必要があるものと考えます。

(結語)

最後に、本大臣級会合において実りの多い議論が展開され、本会合を通じたより良い協力の発展し、その成果によって参加各国の原子力分野における活動が活発なものとなり、社会経済の発展に寄与することを祈念いたします。

ありがとうございました。